

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 10 日現在

機関番号：11301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2015

課題番号：26770019

研究課題名(和文)中国古代から中古に至までの身体観および生命観の変遷

研究課題名(英文)The Thought of Ancient China -The Concepts of Body and Life

研究代表者

高橋 睦美(TAKAHASHI, Mutsumi)

東北大学・文学研究科・専門研究員

研究者番号：10722845

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国の古代から中古時期に至るまでの期間において、人間の身体および生命に関し、同時代の人々の間でいかなる観念が共有され、また時代とともにどのように変遷したのかということについて考察を行った。先秦諸子、秦漢、魏晉時代の資料から、その時代の身体観、生命観をうかがいうる資料を探し、その内容についての分析を行った。その際のキーワードとして、「気」「神」「形(体)」「生」「性」「養生」等に注目した。また、当初は予定していなかった唐玄宗の『道德真経』御注・御疏に関しても、その注釈において治身論が重要な位置を占めているという理由から考察の対象とし、その修身論を支える論理構造について分析を行った。

研究成果の概要(英文)：A main theme of my study is a concept of Chinese body and life from antiquity to the Middle Ages. I paid attention to key word 気(qi), 神(shen), 形(xing), 体(ti), 生(sheng), 性(xing) and 養生(yangsheng) and collected material. The making ages of those material are the 先秦(xianqin), 秦漢(qinhan), 魏晉(weijin). I considered about a concept of a body and the life that people in those days shared by using those material. I changed the schedule and added 唐玄宗『道德真経』御注・御疏(Tang xian-zon Dao-de zhen-jing yuzhu, yushu) to the subject of study. Because A has a thought of 治身(zhisheng). I elucidated that logical structure.

研究分野：中国思想

キーワード：中国思想 養生思想 老子注釈

1. 研究開始当初の背景

研究開始当初、それまでの研究対象であった『老子』注釈史の研究において、主に取り扱っていたのはその宇宙論、生成論に属する議論であった。しかし、『老子』という書物の性格上、人間の本质や実践に関する問題をより深く分析する必要があると考えた。その際、道家・老荘思想と歴史的に深く関わりつつ発展してきた養生思想、あるいは神仙思想について考察することで、これまでとは異なる角度から道家思想や『老子』の思想を考察することが出来るのではないかと考え、本研究の研究課題である、中国古代から中古の時期を対象とした、身体観および生命観の変遷というテーマを得ることとなった。また、本研究に着手する以前に取り組んでいた前漢嚴遵の著とされる『老子指帰』の成立時期確定の問題と関連して、『老子』河上公注の成立時期についても検討を行っていた。しかし、『老子指帰』との比較検討では、各々の『老子』解釈の中でも特に宇宙論・生成論に関わる部分にのみ焦点をあわせており、十分な成果を得られていなかった。そこでこの河上公注に関する検討でも新たな視点が必要であると考えた。そして、本研究の課題である身体や生命に関する議論を通時代的に見ていき、その変遷を追うことで、河上公注の思想がいかなる特徴を有するものであるのかということを変更して把握し直し、なんらかの類型化を行えるのではないかと考えるに至った。そこで、河上公注の成立時期に関する問題についても本研究の一部として取り扱うこととした。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、中国の先秦時代から魏晉六朝期に至るまでの身体に対する観念を明らかにすることを目的とする。魏晉以降、中国では不老不死の神仙になることが可能か否かということがさかんに議論されるに至るが、それらの論点は、それ以前の思想的な様々な理論を下敷きに展開されている。本研究では、身体と、それに宿る精神、生命、さらに運命に対する議論について、その発展と展開について分析し、考察を行う。具体的には、身体を有する人間という存在を検討の中心に据え、寿命と運命論との関わり、長寿を目指す実践の中に見える医学思想の発展とその影響、養生思想の展開とその中で行われた諸々の論争、また身体と精神の関係についても検討の対象としたい。

(2) また、『老子』河上公注の成立時期についても考察する。該書は、道家・道教思想研究において重要な資料であるが、その成立時期が明確ではない。該書の思想史上の位置づけについても考察したい。

(3) なお、以上は当初予定していた研究課題であるが、考察を進める中で唐玄宗の『道徳真経』御注・御疏に注目することとなった。該書は、御注はおそらく玄宗の自著、御疏は臣下や道士らの手になるものだとされている資料である。この資料はその名の通り『老子』注釈書であるが、その基本的な注釈態度は『老子』を治身治国の書として理解するというものである。この基本的姿勢そのものは河上公注などとも共通するものである。またその内容をみると、特に御疏は道士成玄英の『老子』解釈の影響を受けていると思われる、使われている語彙や概念に類似点が見られるが、しかし成玄英の解釈が道教的な目的、すなわち長生にあるのに対し、御疏および御注には、そのような要素は色濃く表れてはいない。御疏、御注に見えるのは人間の本性論と治身論であり、国家が求める理想的な人間の在り方が提示されていると思われる。

道家思想と深い関わりを持ちつつ発展していった養生思想、神仙思想を思想的背景とし、『老子』解釈という形をとりつつ示された玄宗御疏・御注の治身論は、「道」の体得ということ述べるその内容に、新たな方法を加えたものであると考える。本研究では、この御注・御疏を「得道」に関わる議論のひとつの画期とみなし、中国中古時期における人間理解のひとつの例として検討を加えることとした。

3. 研究の方法

(1) 初年度においては、本研究に関係する資料の収集を行った。中国の古代から中世にかけての時期の、人間の身体および生命について言及している資料を網羅的に検索し、そのなかでその思想の構造を再構築しうると思われるものについてピックアップを行った。

(2) 次年度には、それらピックアップした資料について、内容的な分析、考察を行った。先秦の資料としては、本課題を得る直接の契機である『老子』を検討対象とするほか、後の知識人に神仙、または超俗的人格のモデルを提供する事ともなった『莊子』から主に資料を抽出した。秦代の資料としては、様々な思想をその内に集積している『呂氏春秋』、漢代の資料としては主に『淮南子』を参考とした。魏晉の資料では、魏の嵇康「養生論」とそれに対する向秀の論難、嵇康の再反論の文章、晋の葛洪の『抱朴子』から人間の身体・生命に関する観念の構造を再構築し、ここで抽出した論理を本研究全体の足がかりとした。

(3) これらの検討内容は、もうひとつの課題である『老子』河上公注の成立時期確定の問題とも関わっている。『老子』河上公注の成立時期に関しては多くの先行研究がある。

中国の研究においては夙に『老子指帰』と河上公注に類似点が見られることが指摘され、また日本でも早くは島邦夫氏による若干の言及があったのだが、河上公注が果たしている成立した書物なのかという点についてはいまだ定論がない。研究者によって、その成立時期は漢代成立説から六朝成立説まで幅がある。本研究に取り組む以前には、この河上公の成立時期を検討するに際し、主にその宇宙論・生成論に注目して前漢嚴遵の『老子指帰』との比較から考察を行っていたが、本研究課題ではその身体や生命に関わる議論に着目し、魏晋の資料に見える身体観、またはそれ以前の資料に見える身体観との比較を行い、その成立時期について改めて考えることとした。

(4) さらに、当初の研究計画にはなかったが、研究を進めるなかで唐玄宗の『道德真経』御注・御疏に注目することとなった。この御注・御疏に関しては、治身治国という立場から『老子』解釈を行うものとして、人間の本性がいかなるものであり、いかにあることがその本性を全うすることであるのかということについての論述がなされている。そしてそこでいう「身」とは人間の存在全体のことを指していると看取された。所謂養生や長生のみを目的としてさまざまに解釈されてきた『老子』の思想を、それら道教的色彩の濃い解釈を継承しつつも、全人格的修養の論理として『老子』の思想を解釈し直した御注・御疏の思想は、『老子』解釈史上の画期であると共に、儒家的な修身と道家的な治身との融和が為されているという点で、古代から中古に至るまでの身体観(ここでいう身体は無論精神に対置される肉体には限定されない)のひとつの集大成であると考え、その検討を行った。

4. 研究成果

本研究は、中国の古代から中古に至るまでの期間において、人間の身体および生命に関し、同時代の人々の間でいかなる観念が共有され、また時代と共にどのように変遷したのかということについて考察を行った。先秦諸子、秦漢、魏晋時代の資料の中から、各時代の身体観、生命観を考察する材料となると思われる資料を収集し、その際、「気」「神」「形(体)」「精」「生」「性」「養生」等いくつかのキーワードに注目して資料をピックアップし、それぞれの意味内容を文脈に即して解釈・分析した。

また、もうひとつの研究課題である『老子』河上公注の思想的な位置づけに関する分析を行う中で、河上公注同様に治身治国を解釈の基本姿勢とする唐玄宗『道德真経』御注・御疏に対する考察が一定の意義を持つのではないかと考え分析を行った。御注・御疏に

は「沖気」という語が使用されているのだが、先行研究では両書の思想的な特徴を指摘する場合、もっぱら「妙本」という語に注目して分析が行われていた。しかしその「妙本」について正しく理解するためには「沖気」について適切に理解することが不可欠であり、その「沖気」の位置づけを明らかにすることによって、御注・御疏の『老子』の「道」に対する観念の全体を把握することが出来ることを明らかにした。これによって、それ以前の『老子』注釈書における「沖気」の用例との際が明らかになるとともに、本研究の主眼である生命観・身体観の研究にとって重要な「道の体得」ということを考える上で重要な足がかりを得ることとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

高橋 睦美、研究ノート「唐玄宗『道德真経』御注・御疏に見える「沖気」と「沖用」について」、中国文史哲研究会『集刊東洋学』、査読有り、第111号、2014、61-80

〔学会発表〕(計 1件)

高橋 睦美、『唐玄宗御注道德真経』と『唐玄宗御製道德真経疏』の思想的異同について、東北中国学会第63回大会(於穴原温泉吉川屋)、2014年5月25日

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 睦美 (TAKAHASHI, Mutsumi)

東北大学大学院・文学研究科・専門研究員

研究者番号：10722845

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：